

研究の経過と概要

研究主題 豊かで創造的なゆとりある教育課程の編成の実践

研究内容・方法

- ・「子どもたちに本当につけさせたい力」とは何かを改めて問い直し、自主創造的な教育実践を積み重ねることによって、結果を出していく。
- ・子どもたちに「ゆたかな学び」を保障してくために、質の高いカリキュラムや実践を創造していくことが大切である。
- ・子どもの実態を踏まえ、教材の活用や授業の展開を研究することに加え、カリキュラムや授業プランを工夫して、その内容や方法を創り変えていく必要がある。
- ・「学びの意欲」を喚起させる「わかる授業」「楽しい授業」を創造するために、日々、目の前にいる子どもたちの実情に合わせたカリキュラムを追究し続けていかなければならない。

以上の、考え方に基づき、本部会ではこれまでに、主にカリキュラム編成に工夫について、総合的な学習の時間を中心に研究を進めてきた。

新学習指導要領においては、「基礎的・基本的な知識・技能の習得」と「知識・技能を活用して課題解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成」によって学力向上を図ることが示されているが、総合的な学習の時間においては、各教科で学んだ知識や能力を生かすことによって、その成果を高めることが期待されている。そこで、本部会においては、総合的な学習の時間だけにこだわらず、他の教科での実践も視野に入れ、自主編成によるカリキュラムの工夫について研究を進め、検証結果を日常実践に還元していくことを目指している。

授業実践においては、多角的な視点をもって教材や単元を分析しながら「どのように教えたらいいか」「どういう授業を展開したら効果的か」を模索していくことを基本とし、定められた指導計画によるものではなく、「教科書“で”教える」という意識を大切にしながら、自主創造的な学習プランを策定して実践を進めていく。

そのために、次の3つの視点を重視して、成果の検証にあたる。

- (1) 授業（単元）における、「子どもにつけさせたい力」は何かを明らかにする。
- (2) 授業（単元）において、授業者が「自主編成した部分はどこか」「工夫したところや作り直した点はどこか」を明らかにする。
- (3) 授業（単元）の振り返りや分析を丁寧に行い、成果と課題を明らかにする。

昨年の成果と今後の課題

○昨年度の成果

- (1) 研究の対象が「総合的な学習の時間」にとらわれずに他教科に広がったことにより、様々な教科などのカリキュラム（単元構成）の工夫にふれることができた。部会員相互による実践交流を通して、自主編成的なアイデアや具体的な指導法を還流することができ、研究の広がりを実感することができた。
- (2) 研究授業においては、子どもの実態を踏まえた教材開発や効果的な単元の構築を模索することができた。指導者による計画的な教材分析の有効性と、目指す子ども像に応じた確かな指導体制をもつことの大切さを再認識することができた。
- (3) 授業分析において、子どもの作品や感想記述（ワークシート）に時間をかけて多角的に分析することにより、子どもの変容の読み取りにいかすことができた。

○今後の課題

- (1) 子どもに「身につけさせたい力」を明確にし、授業づくり、カリキュラムづくりをするとともに、子どもの主体的な学びを喚起できるような魅力ある単元全体の構成を模索していく必要がある。
- (2) 自主編成をしたり、カリキュラムの工夫を行ったりしたことがどうだったか、全体で共有する時間をとる必要がある。

第3学年 学級活動 授業案

授業者 日野原 裕子

1 題材 「登校中に大地震が起こった時の動きを考えよう」

内容(2)キ 心身ともに健康で安全な生活態度や習慣の形成

2 題材について

(1) 生徒の実態

男女とも仲が良く、リーダーを中心にまとまりのあるクラスである。しかし、話し合い活動になると、それぞれが意見を言うだけで、そこから話し合いが深まらないのが課題である。相手の意見を聞いて、自分の考えと照らし合わせ、そこから考えを再構築していく力をつけさせたい。

昨年度、予告なしの避難訓練を昼休みの時間に行った。本生徒は初めて体験する訓練であり、教員は指示を出さず観察するという立場を貫いた。地震発生放送直後、速やかに机の下などに入る生徒がいた一方、机の下などに入らない生徒も見られた。近くにいる教員からの指示なしの状況では、すぐに避難行動をとれないことが課題として残った。教室以外の場所にいた生徒の中には、わざわざ教室に防災頭巾を取りに戻った生徒も見られた。臨機応変な対応を考えることも課題であることがわかった。校舎から校庭への避難に関しては、「おはしも」を守ることができていた。

(2) 題材設定の理由

近年、山梨県は震度6以上の地震が起きていない。しかし、県内には糸魚川―静岡構造線断層、曾根丘陵断層、釜無川断層、藤の木愛川断層などの活断層が分布しており、直下型地震が予想されている。また、気象庁による予想では、南海トラフ地震が30年以内に起こる可能性は80%とされており、そうなると震度6以上の揺れが襲ってくると考えられている。地震による二次災害として、火災・土砂災害の被害も想定しなければならない。富士山の噴火も懸念する必要がある。

本生徒は3年生であり、社会や理科等の授業で地形や地震のしくみを学習している。来年の4月から社会に出る者もいる今、学校以外の場所で地震が発生した時にとるべき行動を考えていくことは重要であると考え。地域の避難所・危険箇所等を把握しておくと共に、地図を利用して俯瞰的に地域を見る力もつけさせたい。

今回は、登校中に大地震が起きたら時、どう動いたらよいか焦点を当てて考える。ポイントを絞ることで具体的にとるべき行動を考えやすくなり、みんなで話し合うことで自分では気づかなかったことに目を向けられると思われる。避難は一人ではなく、地域の人と共に避難することになる。その際、地域の一員として自分にできることがあったら、進んで実践する心構えもしてほしい。ゆくゆくは、救助活動に携わったり、避難所で地域の人と生活を共にしたりすることも視野に入れて考えさせたい。

災害時は想定外のことも起こりうる。とるべき行動は一つではなく、臨機応変さが求められる。本時の学習を通して想定したことを日頃の生活の中に役立てると共に、今後も各地の情報に注意を向け、災害・防災の知識を蓄えていってほしい。

3 評価基準

関心・意欲・態度	思考・判断・実践	知識・理解
災害についての関心を持ち、日常生活の場面に置きかえて考えようとしている。	災害発生時の対応についての知識を活用し、地域で災害が起こった時の対応について考え、とるべき行動を判断している。	地震と二次災害・地震発生時にとるべき行動を理解している。地域の危険箇所について考え、理解している。

4 本時のねらい

地域の避難所・危険箇所等を把握しておくと共に、地図を利用して俯瞰的に地域を見る力をつける。

登校中に大地震が起こった時の対応について考える。

5 事前の活動

・学校で地震が起こった時、とるべき行動について指導する。教室以外の場所や先生がいない時間に地震が起こったときの対応についても考えさせる。

・地域の危険箇所（工事箇所・ブロック塀・壊れそうな建物・用水路・狭隘道路など）を確認してくるとい宿題を出す。

6 本時の展開（1時間）

	指導事項	学習活動	指導上の留意点
導入 5分	・東日本大震災について思い出す。 ・山梨県の地震活動の特徴と予想される二次災害を知る。	・地震により引き起こされる被害を確認する。 ・山梨県にある活断層と南海トラフによる自身の危険について知る。 ・起こり得る二次災害として、土砂災害・火災・富士山噴火があることを知る。	・地震後の映像（火災・ブロック塀倒壊等）を用意する。 ・映像資料を用意する。
展開 40分	1. 昨年度行った防災訓練を思い出す。	・防災訓練ですぐに行動に移せなかった人がいた反省を思い返し、本時のねらいを確認する。	・訓練の必要性和臨機応変な対応の大切さを伝える。

分	<p>2. 白地図を利用し、避難所の確認を行う。</p> <p>3. 指定された班の一人について、登校中に大地震が起きた時の対応を考える。</p> <p>4. 他の班の地図を見る。</p>	<p>・地区ごとの班に分かれ、白地図を用い以下の作業を行う。</p> <p>①自分の家にふせんをつける。</p> <p>②地域の避難所・広場・公園に印をつける。</p> <p>自分たちの地域の危険箇所を確認する</p> <p>・通学路に線を引く。</p> <p>・危険箇所を書き込む。</p> <p>・登校中の地域の様子を書き込む。</p> <p>登校時に大地震が起こった時の動きを考える</p> <p>・地震発生時に家に戻るのと学校に行くのとはどちらが安全か、通学路の境目を話し合う。その際、自分たちにできることがあるか話し合う。</p> <p>・他の班がどのように考えたかを知り、自分の班と比べる。</p>	<p>・班は小学校区ごとに決めておく。</p> <p>・班の中から、多数が利用する通学路を通る生徒を選んでおく。</p> <p>・地域の小学生、自動車等にも目を向けさせる。</p> <p>・席を自由に立って見てもよいことを伝える。</p>
まとめ 5分	<p>・本時のまとめをす</p> <p>る。</p> <p>・考えたことを発表</p> <p>する。</p>	<p>・今日の授業で考えたことをワークシートに書き込む。</p> <p>・数名が考えたことを発表して、交流する。</p>	<p>・ワークシート用意。</p> <p>・机間巡視をして指名する。</p>

登校中に大地震が起こった時の動きを考えよう

氏名 ()

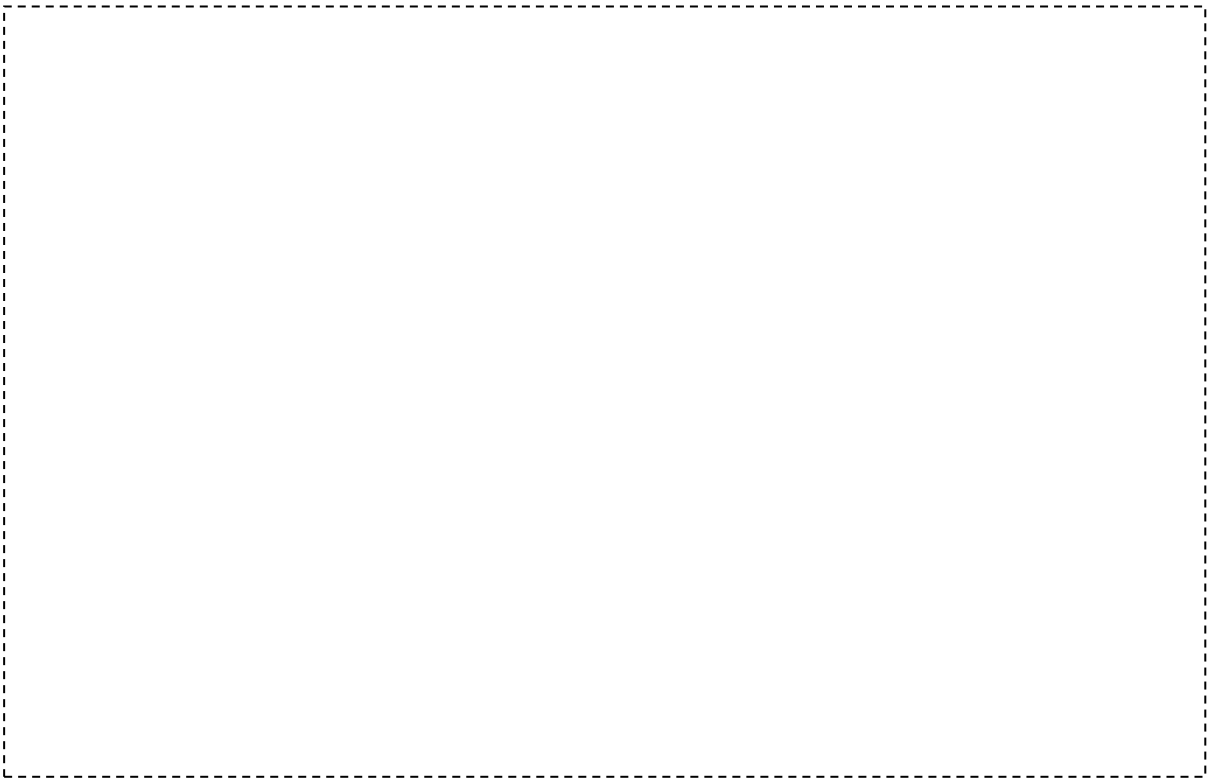
◎地図 *後日貼ります

自分たちの地域の危険箇所を確認する


- ・危険箇所
- ・登校中の様子

登校時に大地震が起こった時の動きを考える

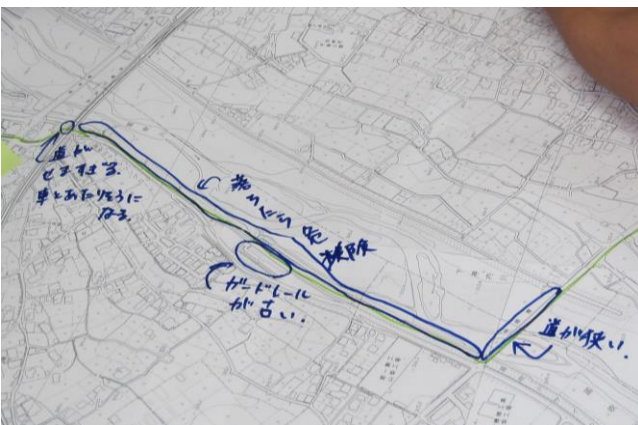
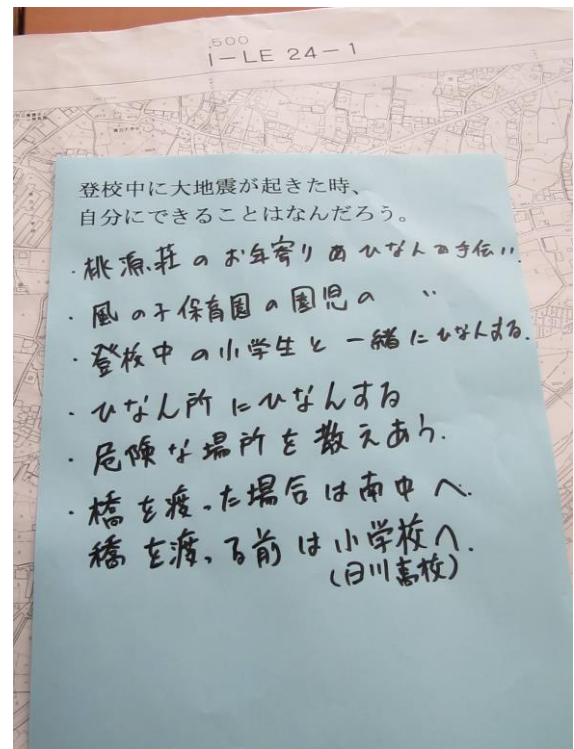
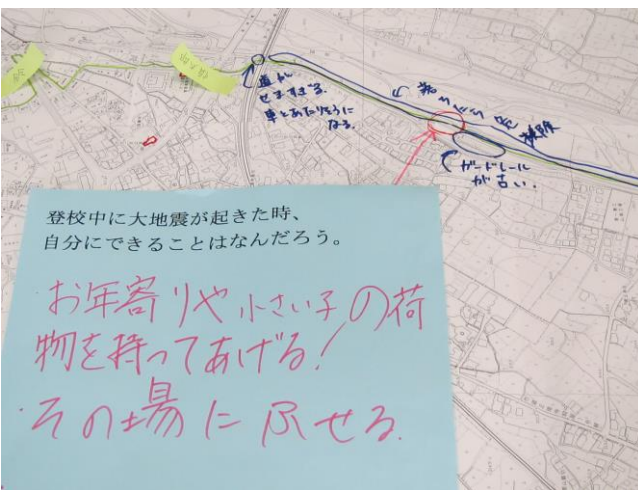
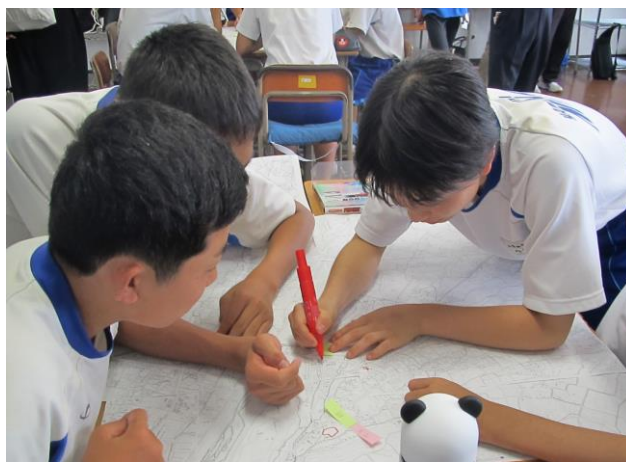
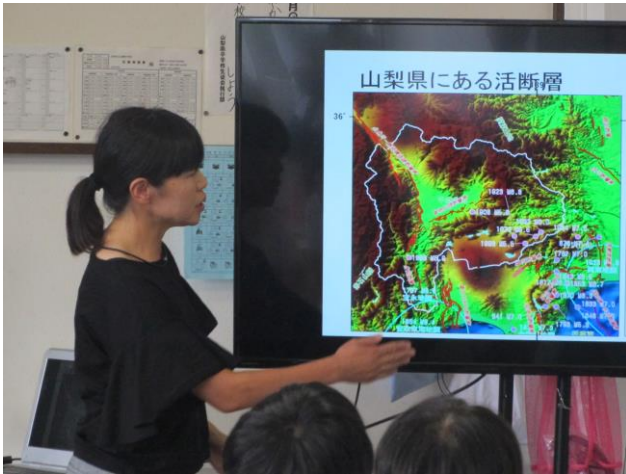
- ・地震発生時に家に戻るのと学校に行くのとではどちらが安全か、通学路の境目を話し合おう。
- ・その際、自分にできることは何だろう。

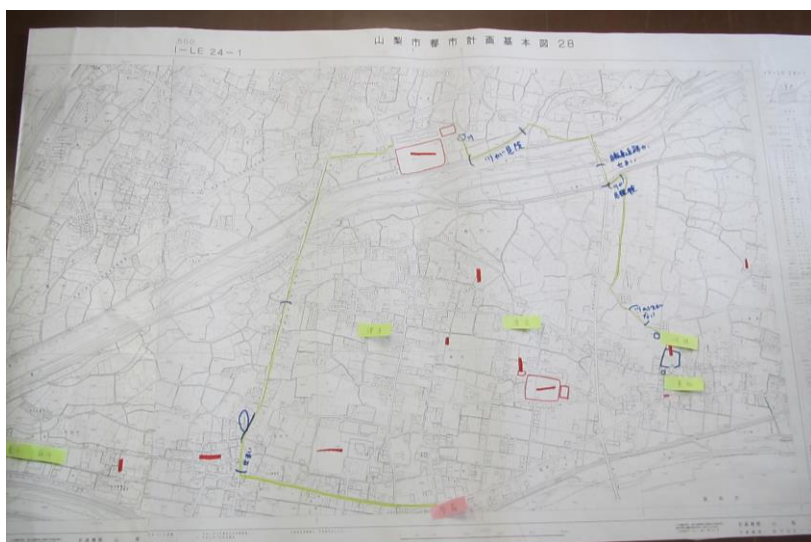


◎今日の授業で考えたことを書こう



(授業の様子)





登校中に大地震が起きた時、
自分にできることはなんだろう。

・小さい子供を、おんぶして
運んだり、お年寄りや安全な
所に誘導する。

・くずれた所など危ない場所
を伝える。

（周りの人に）

7 事後の取り組み

- ・ハザードマップから、水害の危険を把握し避難所や避難経路を考える。
- ・外出先での対応、家族との連絡の取り方等を確認する。
- ・指定避難所に集まる人数を想定し、避難所でのルールについて考える。（社会科の授業）
- ・予告なしの避難訓練を行う。（学校全体で）

8 授業後の感想・反省

【生徒感想】

- ・山梨も危険なところだと思った。
- ・地震が起きた時、家と学校どっちに行くか近いからこそどうするのか悩んだ。
- ・登校中に地震が起こったらどうするのか考えたことがなかった。
- ・今まであまり考えたことなかった地震が起きた時のことについて考えるきっかけになった。
- ・もし地震が起きたら、自分の判断で行動しなければいけないから、今日のようなことを考えるのは大事だと思った。
- ・普段から登校中に危険な場所や避難場所を見ておくことが大切だと思った。
- ・危険な場所がどこにあるのかよくわかった。
- ・よく考えてみると、登下校のルートでたくさん危ない場所があった。
- ・地震が起きた時、ただ自分だけ避難するのではなく、小学生などの人にも声をかけて、一緒に避難するのが大切だと思った。
- ・地図はとても難しかった。
- ・地震が起きた時、どこで起きたら、どこに避難すればいいか考えることができた。

- ・避難場所を改めて確認できたので、家族ともしっかり話し合いたい。
- ・地震が起きた時、どこに行けばいいのか、自分に何ができるのかを考えることができた。
- ・何気なく通っている道でもいざとなったときにどうするかを改めて、友達や家族と話し合ったほうが良いと思った。
- ・中3になったので、ほかの人のことも考えて冷静に避難の行動をしようと思った。
- ・自分たちが一番動ける年代だと思うので、危険な個所をしっかりと確認しておき、困っている人の呼びかけ、手伝いをするのが大事だと思った。
- ・まずは自分の身を守れるよう落ち着いて行動したいと感じた。
- ・その場で、臨機応変に対応しなければならないと思った。
- ・もう少しで自分たちは大人に区分されると思う。
- ・危ない場所を日常的に見つけておいて、家族と話し合いたいと思った。
- ・もっと近所の人と交流を深めて、いざというときに協力できるようにしたいと思った。
- ・地震は何が起ころのかよくわからないので、あらゆる可能性を考えなくてはいけないと思った。
- ・地震が起きたときに自分にできることをみんなと考えることができてとてもいい場になった。
- ・みんなで話し合ったけれど、実際は自分のことで精いっぱいになってしまうのではないかと考えた。

【教師反省】

よかった点

学校外での大地震を想定した授業を行うことで、生徒の視野を広げることができた。「普段、考えたことがなかったことを考えることができた」という生徒の感想にあるように、学校外で災害が起きた時の状況を考えることは意味があったと考える。

また、「家族でも話し合いたい」などの感想にあるように、家族や地域を含めた今後につながる防災に対しての意識が高まったと考えられる。

話し合い活動も、地図を囲んで活発なやりとりができていた。

今年の千葉県での台風被害では、情報が伝わらないという問題が上がった。映像としての情報がないなかで、地図を頼りに地域の状況を考えることの必要性を感じた。今回の授業で白地図を頼りに地域のことを考えたことには意味があったと思われる。

課題点

まず、「登校途中に大地震が起こった時、家に引き返すか学校に行くか、その境目はどこだろう」という質問に対して、明確な正解がないためアドバイスが難しかった。学校としても「橋を渡るのは危険だから橋を渡らずに引き返す」などのマニュアルはあるが、家の方面で火災が起こっていたらどうするか、中学校ではなく近くの小学校や公民館に行ったほうがいいのか、家

に誰もいない人はどうするかなど、個々の生活環境とその場の被害状況で避難経路は変わってくる。いろいろなことを想定したうえで考えさせるのは難しかった。生徒に自分の生活環境を把握させるなどの事前準備が必要だと感じた。そうすれば、もっと深まりのある話し合い活動が行えたと思う。

また、「果樹園は緊急避難場所として適切か」などの質問に対して教師側がしっかり答えることができなかった。正解はないとしても、過去の災害から学ぶべきことを教師が勉強し、いろいろな機会の中で、生徒に伝えていくことが大切だと感じた。

臨機応変な対応とは言っても、実際に地震が起きた時に落ち着いて行動するのは難しい。今後も防災教育と緊張感ある避難訓練を行っていきたい。

【その後の研究会で出た意見】

- ・学校外での災害を想定して動きを考えることは、意義のあることだと思う。
 - ・生徒が地域の危険箇所について真剣に意見を交換していた。
 - ・とてもいい雰囲気で行われていた。
 - ・地図をみる力がついていると感じた。
 - ・避難をする場所について、地域の公民館や広いスペースなど、学校・家以外の場所についても考えていた。
 - ・自分のことだけでなく、小学生や地域のお年寄りを避難誘導するという視点をもっていた。
 - ・大地震が起こった時、どこで起こったらどこに避難するのか、公民館などの場所を挙げていたが、それを教員側が把握しておいた方がよい。
 - ・生徒がどこに避難するのかわからない状況が考えられるので、家族との連絡の取り方を確認しておく必要がある。
-
- ・導入の写真が効果的だった。
 - ・防災について、教師が教えるだけでなく、自分たちで考えることも大事だと思った。
 - ・何が危ないのかを白地図に書いたのが、交流の場で生かされていた。
 - ・東日本大震災から登校まで、焦点化されていてよかった。
 - ・「ひなんばしょ」という看板がひらがなで書いてあることを紹介していて視点がよかった。

【指導助言】

多様な考えが出てよかった。正解はないので、どのように教えればよいか難しい面もある。他教科と連携していくことで、考えが深まると思う。臨機応変に対応するためのよい機会となった。防災教育の重要性を感じた。教えるべきことはしっかり教えていきたい。ハザードマップか白地図か授業案検討の時に迷っていたが、白地図にしてよかった。白地図での作業が実際の場面で役に立つと思う。本日の授業を通してカリキュラムづくりについて考える必要を感じた。安否確認をどうできるか、校舎のどこを開放するのかなど、職員で確認する必要がある。